

海底下の変動現象を捉えるための海域観測の現状と展望：議論

Discussion on ocean area observation to detect crustal activity under the seafloor: Present and future

*堀 高峰¹、平原 和朗²、日野 亮太³

*Takane Hori¹, Kazuro Hirahara², Ryota Hino³

1. 独立行政法人海洋研究開発機構・地震津波海域観測研究開発センター、2. 京都大学大学院理学研究科、3. 東北大学大学院理学研究科

1. R&D Center for Earthquake and Tsunami, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, 2. Graduate School of Science, Kyoto University, 3. Graduate School of Science, Tohoku University

海底下における地震やゆっくりすべり等の様々な変動現象の観測が、S-netやDONETをはじめとして海底ケーブルを用いてリアルタイムに実施されているとともに、GNSS/Aや海底間音響測距による地殻変動の繰り返し観測も行われ、巨大地震震源域である日本海溝や南海トラフにおいて、地殻活動の現状を評価するための観測技術が着実に進展してきている。その現状・成果と課題についてレビューするとともに、今後の新たな観測網構築に向けた方向性について議論する。さらに、将来に向けた様々な新しい観測技術（光ファイバーの歪計・地震計やレーザー測距、海底SAR、ブイの活用等）の開発の現状や、海底下変動の観測と海洋変動・気象変動観測を組み合わせる等の観測システムの将来展望について共有し、将来の方向性についても議論する。

キーワード：海底下変動現象、海域観測、将来展望

Keywords: Crustal activity under the seafloor, Ocean area observation, Future perspective